



作成：中之庄小学校

デジタル社会でより良く生きる児童の育成

【内容】第5学年社会科「情報を生かすわたしたち」

【使用アプリ】Jamboard、ロイロノート

【事例紹介】

インターネットに関するトラブルの経験を出し合い、未然に防ぐ方法や解決策について話し合いました。経験を共有するためのツールとして、「Google Jamboard」を活用しました。同時進行で経験を出し合って共有したり、種類によって整理したりでき、効率的に話し合いを進めることができました。トラブルへの対処についての話し合いでは、既習事項を振り返りながら、グループで積極的な討議が行われました。話し合いの結果は、ロイロノートでまとめました。

<インターネットに関するトラブル>

インターネットに関するトラブル(グループ6)

<p>ダウンロードしようとしたアプリが他人の悪戯を疑うので使えなくなった。</p> <p>勝手におしこぎして使えなくなった。</p>	<p>オンラインで対戦をしているときに、相手が強めたのか、最後まで対戦を終わらせずに、アプリを切断(タスクキル)されて対戦を中断された。</p>	<p>オンラインゲームをしていると相手の名前が勝手に変わった。</p> <p>友達とゲームをしているときに勝手に切られた。</p>	<p>友達と時間を合わせて一緒にゲームをしようとしたけど、急に音もなく、勝手に終了して待たせて少しは嫌な思いをさせてしまった。</p>	<p>自分の周りの友達にスマホのトラブル、悪戯や盗難が頻りに発生している。悪戯や盗難が頻りに発生している。悪戯や盗難が頻りに発生している。</p>
<p>ゲームをしていたら急に大文字のメッセージがまわって1週間くらいゲームができなくなっていた。お金のやり取りがなかった。</p>	<p>ゲームをしているときに知らぬ間にアカウントがロックされた。</p>	<p>オンラインゲームのフレンド機能で、勝手に他人からフレンド申請が来て、ゲームプレイのしやすくなった。</p>	<p>お友達とのやり取りで悪戯や盗難が頻りに発生している。悪戯や盗難が頻りに発生している。</p>	<p>お友達とのやり取りで悪戯や盗難が頻りに発生している。悪戯や盗難が頻りに発生している。</p>

<3つのステップ>

インターネットで行動する時の3つのステップ

- 1 立ち止まる
行動する前に、いったん立ち止まろう
- 2 考える
今、何をすべきか考えよう
- 3 相談する
信頼できる人に相談しよう

<話し合い>

情報を正しく生かす (グループ3)

トラブル
LINEで文章を打ち間違えて、友達に嫌な思いをさせた。

↓

トラブルにならないために

- 絵文字をつけたりと工夫をする(勘違いをされないように自分の意見どおりになるようにする)
- 言葉を考える(気持ちは会ってから伝える)
- LINEグループの人たちとルールを決める
- 相手の気持ちを考えて言葉を選ぶ(トラブルにならないように)
- 嫌な気持ちになれば誰かに相談する

まとめとして、デジタル・シティズンシップ教育の視点から「立ち止まる、考える、相談する」の3つのステップの確認を行いました。

【終わりに】

インターネットに関するトラブルは、すでに児童にとって身近な問題となっています。実際に経験したことを出し合い、それにどう対応するか話し合うことで、情報化社会の中で主体的に生きようとする態度につながったと思います。今後も、デジタル・シティズンシップ教育の視点を意識しながら指導方法を工夫していきます。

☆教育委員会指導主事より☆

インターネット上のトラブルと現実世界のトラブルは共通点もあれば、相違点もあります。出来事を確認し、自己を振り返り、相手の立場に寄り添い、他者を思いやる心情を育み、行動化につなげるといった根本の部分はそのどちらの世界でも重要です。しかし、その具体的な中身にはインターネット特有の側面が存在します。学校で表面化するトラブルのうち、インターネットに起因するものの割合が高くなっているのは事実です。だからこそ、情報活用能力を育む取組として、インターネット上のトラブルを扱う題材も積極的に取り入れてください。